

チョウ目害虫（シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ）の発生が多くなっています！ 圃場を観察し、若齢幼虫のうちに防除を行い、被害拡大を防ぎましょう。

シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウは、野菜類、豆類、花き類を加害する広食性の害虫です。フェロモントラップ調査において、これらの成虫の誘殺数が平年に比べて多く、今後、本虫による被害の拡大が予想されます。圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行いましょう。

[現在の状況]

- ① シロイチモジヨトウの直近1か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、つくば市で平年より多く、笠間市で平年よりやや多い～多い（図1）（笠間市はデータ省略）。
- ② オオタバコガの直近1か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、筑西市および笠間市で平年より多く、土浦市、龍ケ崎市および坂東市で平年よりやや多い～多い（図2、3、4）（笠間市、坂東市はデータ省略）。
- ③ ハスモンヨトウの直近1か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、笠間市で平年より多く、鉾田市および筑西市で平年並、龍ケ崎市で平年並～やや少なく、土浦市で平年より少ない（図5、6、7、8）（土浦市はデータ省略）。
- ④ 8月下旬現在、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウは、ネギや大豆等で、オオタバコガは、大豆やナスで発生を認めている。

[防除対策]

- ① 中齢以降になると薬剤の防除効果が低くなり、さらに幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になる。そのため、圃場をよく観察し、若齢幼虫の早期発見に努め、防除を徹底する。
- ② 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ シロイチモジヨトウでは令和4年度に主要薬剤の殺虫効果について試験を行ったので参考にする。（令和5年2月24日発表 病害虫発生予報3月号 p3-4 防除所レポート参照）
- ⑤ オオタバコガおよびハスモンヨトウについては、病害虫防除所ホームページに、フェロモントラップの誘殺状況を公開しているので参考にする。

[注意事項]

- ・作物や害虫種によって、登録のある農薬が異なるので、農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用基準や注意事項を必ず確認する。

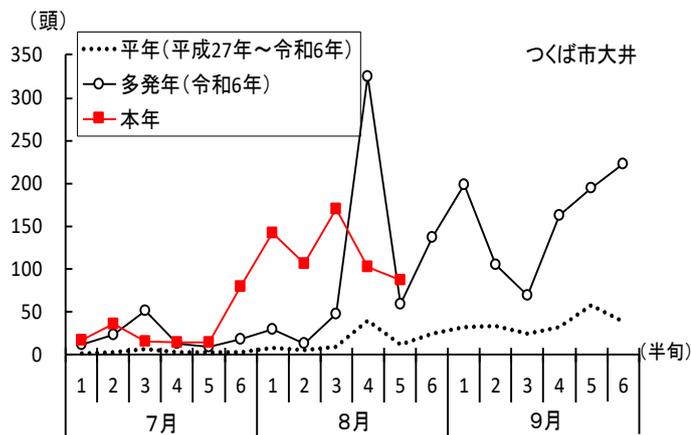


図1 シロイチモジヨトウ(つくば市)

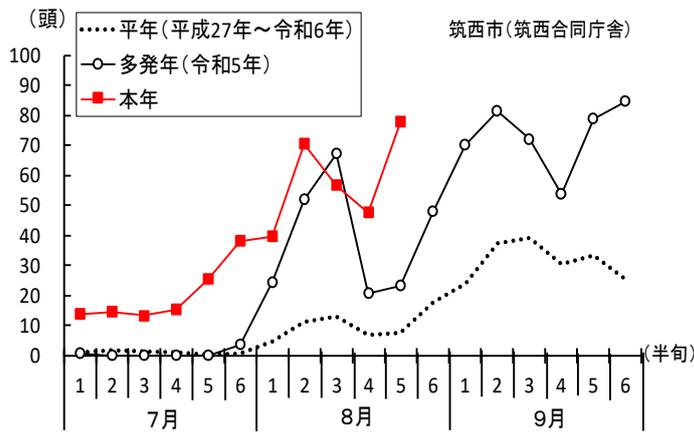


図2 オオタバコガ(筑西市)

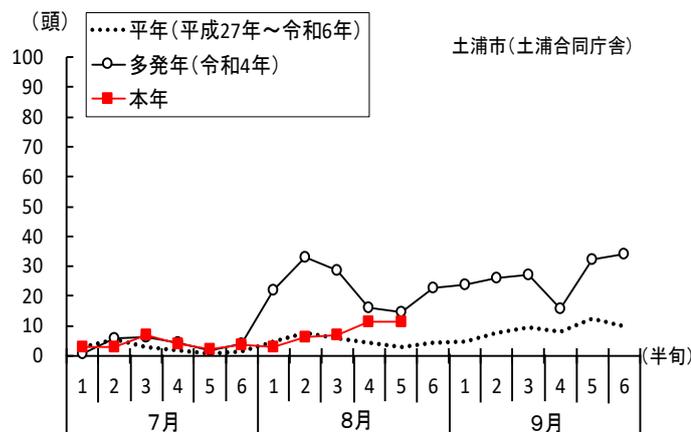


図3 オオタバコガ(土浦市)

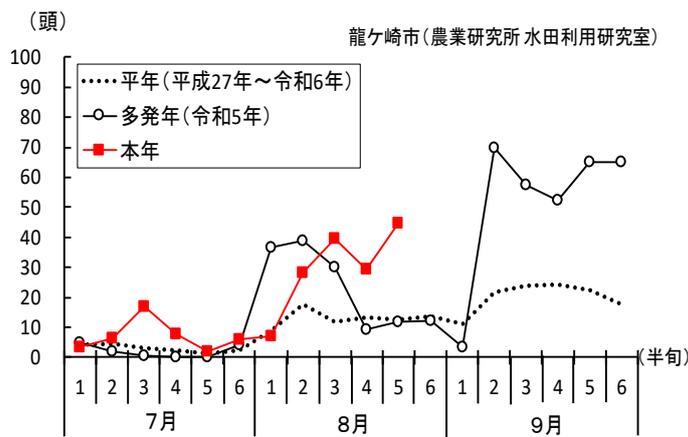


図4 オオタバコガ(龍ヶ崎市)

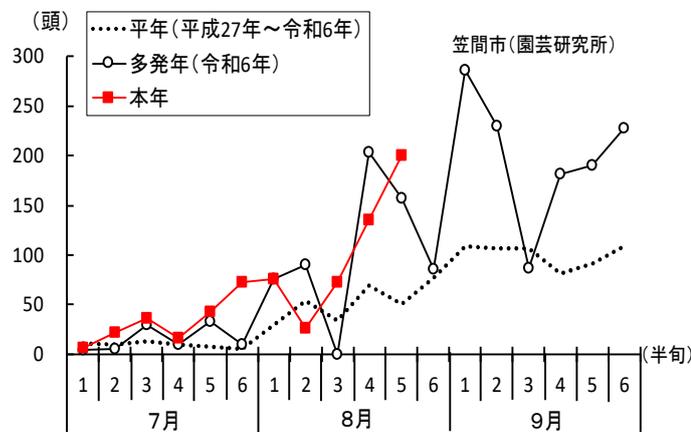


図5 ハスモンヨトウ(笠間市)

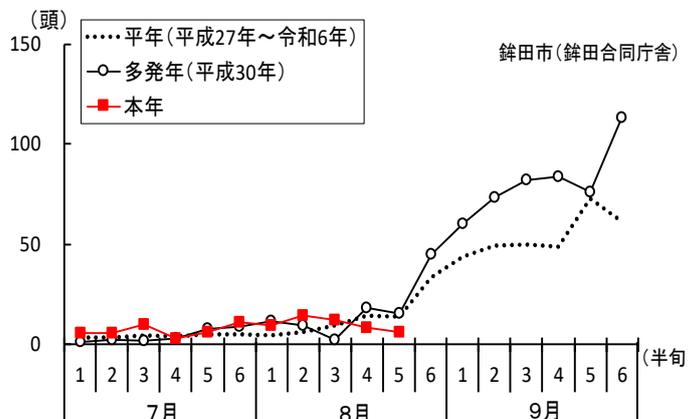


図6 ハスモンヨトウ(鉾田市)

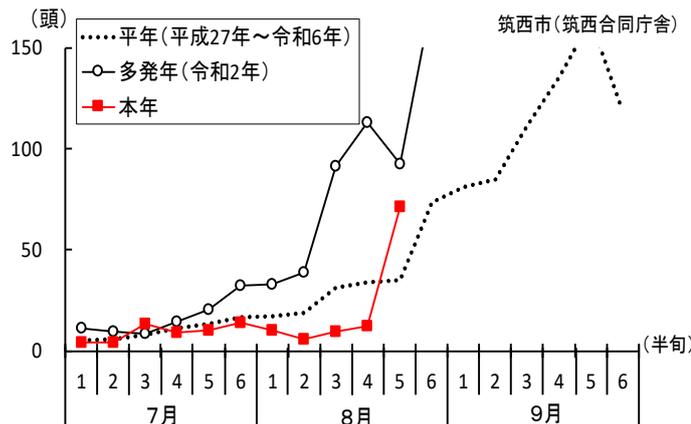


図7 ハスモンヨトウ(筑西市)

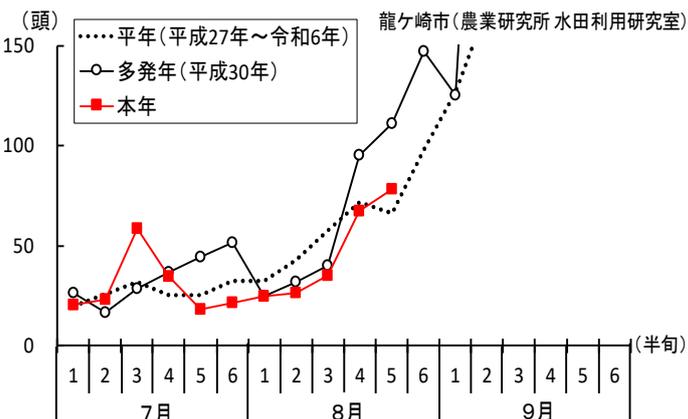


図8 ハスモンヨトウ(龍ヶ崎市)